

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況について

中海会議利活用WG事務局（島根県政策企画局）

【ワーキンググループ概要】

趣 旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し、継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

構 成：別添名簿のとおり。（事務局は鳥取県元気づくり総本部広域連携課及び島根県政策企画局政策企画監室。内容により名簿記載以外の部課も適宜参加）

【これまでの開催経過】

OWG打合せ会 平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

○第1回WG 平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

（テーマ：一体感の醸成 “中海でつながる” 水面のスポーツ利用 “中海に親しむ遊ぶ”  
海藻の利用 “中海で循環する” 食文化 “中海の恵みをいただく”  
環境学習 “中海を知る” ）

○第2回WG 平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

○第3回WG 平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

○第4回WG 平成23年6月29日

内容：利活用アイデア(たたき台)について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの(既に実施中を含む)などをセレクト。

○第5回WG 平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第6回WG 平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第7回WG 平成25年3月18日

内容：利活用アイデアの状況及び今後の推進方針等を確認。また、中海利活用WGの今後の進め方について協議。

○第8回WG 平成25年5月1日

内容：第7回WGにおいて協議した今後の進め方について再協議。WGで提案された利活用アイデアだけでなく、他団体で取組まれている内容も一覧にして会議へ報告することを確認。

○第9回WG 平成26年7月4日

内容：内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第10回WG 平成27年6月26日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。今後のアイデアの取り扱いについて方向性をまとめていくことを確認。

○第11回WG 平成28年5月24日

内容：WG構成員に島根県商工労働部観光振興課を追加。利活用アイデアの取り組み状況を確認し、提案内容を整理することを確認。

# 中海の利活用

## 中海で遊ぶ～中海のスポーツ利用～

### ①中海周遊サイクリングの推進

(中海周遊サイクリングを活用し、「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る)

### ②マリンスポーツ・レクリエーションの推進

(マリンスポーツなどが楽しめるエリアとしPRするとともに、周辺環境の整備を行う)

## 中海を観る～中海の観光利用～

### ③中海周辺観光

(「環境にやさしい中海圏域」をPRするとともに、自然環境を活かした観光振興を図る)

## 中海を活かす～中海資源の活用～

### ④水産資源の活用・回復

(中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、中海産品の復権を目指す)

### ⑤中海の「藻」の活用

(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)

### ⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

(大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を活かし、大型水鳥類を活用した観光振興を推進する)

## 中海を知る～環境教育～

### ⑦中海を題材とした環境教育

(次世代を担う子供たちの中海に対する意識を高め、ワイズユースを持続させる)

## 中海でつながる～一体感の醸成～

### ⑧ラムサール条約普及啓発の取組

(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取り組みを進める)

### ⑨中海ワイズユース住民活動の推進

(住民自身が未来志向で実施する中海のワイズユースに資する企画を支援)

## ①中海周遊サイクリングの推進

### 1 目 的

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大聖地」となることを目指す。

### 2 取組みの成果

中海周遊サイクリングコースには、山陽、関西方面など山陰両県以外のサイクリング愛好者も訪れており、認知度が向上している。

また、サイクリングイベントとして開催されている中海ライドは、近年は認知度の向上やサイクリングブームも追い風となって参加者が増加しており、圏域の活性化が図られている。

中海ライド参加者の推移 (人)

H23	H24	H25	H26	H27
207	264	251	307	361

### 3 今後の取組み

#### (1) 広域サイクリングコースの設置

- ・鳥取、島根、広島、愛媛の4県を結ぶ広域サイクリングルート構想に、中海周遊コースを組み込むことを検討する。

#### (2) サイクリングエイドの登録整備

- ・鳥取県では、レンタサイクル等総合拠点「コグステーション」及び「サイクルカフェ」を整備してサイクリスト支援体制「ダイジョウブシステム」を構築済み。
- ・鳥取県と包括協定を結ぶコンビニエンスストア3社の県内店舗の一部を「サイクルポート」として整備済み。
- ・島根県においても、本年度サイクリングエイドの登録制度の創設を予定。
- ・観光施設や道の駅、飲食店、包括業務提携を締結しているコンビニエンスストア等の参加を想定し、広く呼びかける。
- ・登録したサイクリングエイドは、今後作成するサイクリングマップ等に掲載し、情報発信する予定としている。

#### (3) 米子市における自転車活用推進

- ・自転車の活用を視点にしたまちづくりに関する研究のため、市役所庁内に研究会を立ち上げ。
- ・環境面はもとより、スポーツや観光面、あるいは健康づくりの面など、様々な視点から幅広く研究する。

#### 4 これまでの取組み

- ・H22年度 「サイクリングロード整備検討会」（鳥取県組織）を設置
- ・H23年度 「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表  
「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」（島根県組織）を設置
- ・H24年度 専門家による検討中コースの試走（島根県）
- ・H25年度 コース案について道路管理者・公安委員会等と協議  
レンタサイクル等総合拠点「コグステーション」（大山等3カ所）及び「サイクルカフェ」（西部地域のカフェ、レストラン16店舗と連携）を整備し、安心・安全・快適に自転車を楽しむためのサービス（水・修理工具の提供、休憩・トイレの利用等）を提供（鳥取県）
- ・H26年度 サイクリングロードの環境整備（路面表示等）、サイクリングマップ完成、台湾からのサイクリングツアーの受入れ（鳥取県）  
鳥取県と包括協定を結ぶコンビニエンスストア3社の県内店舗の一部（約110店舗）を「サイクルポート」として整備（鳥取県）
- ・H27年度 サイクリングイベント「中海ライド2015」で中海周遊サイクリングコースの一部を利用



## ② マリンスポーツ・レクリエーションの推進

### 1 目 的

自然豊かな中海及びその周辺環境を生かしてマリンスポーツ・レクリエーションが楽しめるエリアを形成し、その活用によって周辺住民の福利を増進させるとともに、圏域外にPRすることにより来訪者を増やして中海圏域の振興を図る。

### 2 取組みの成果

平成27年度に開催した中海オープンウォータースイム、なかうみマラソン全国大会は、北は北海道、南は熊本県からの参加があり、圏域外へPRの機会となっている。また、中海・宍道湖レガッタは、中海周辺住民を中心に参加しており、心身の健康増進、参加者間の交流が進んでいる。

### 3 今後の取組み

#### (1) イベントの継続

##### ① 中海オープンウォータースイム

- ・開催日：H28. 6. 26 場所：米子湾、米子市湊山公園 参加者数：199人
- ・NPO中海再生プロジェクトが、スローガンである「10年で泳げる中海」をNPO活動10年目の平成23年に実現。
- ・オープンウォータースイミングは平成20年北京五輪から正式種目になった競技。
- ・本年度は、オープンウォータースイム日本選手権出場権をかけた選手権の部と一般の部を分離し、子供も楽しめる親水イベントをあわせて開催。

##### ② 中海・宍道湖レガッタ(2会場で開催予定)

###### ○「中海・宍道湖全国小中学生交流レガッタ大会」(仮称)

- ・開催予定：H28. 9. 18 場所：米子市湊山公園内 錦海ボートコース 予定参加数：未定
- ・小中学生を対象とした4人漕ぎボートのレース。
- ・鳥取県内で活動しているアウトドアスポーツ関係の競技団体等と連携し、「アウトドアスポーツフェスタ」を併催して情報発信力を強化するとともに、中海利用団体の連携強化を図る。

###### ○「第2回中海・宍道湖レガッタ」(仮称)

- ・開催予定：H28. 10月 場所：松江市美保関万原ボートコース



### ③なかうみマラソン全国大会

- ・開催日：H28. 11. 6 場所：安来市中海湖岸 予定参加者数：約5,000人
- ・平成17年から開催し、今年度12回目となる。
- ・景観の美しい中海湖岸を走る、山陰最大の市民マラソン。

### ④鳥取中海SUPフェスティバル

※SUP：サーフボードのような専用のボードの上に立ち、パドルで漕いで水上を進む新しいマリンスポーツ

- ・開催日：H28. 8. 21 場所：境港市夕日ヶ丘周辺及び中海周辺 予定参加者数：約130人

## (2) マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

### ①カイトボードゲレンデの周辺整備（一例）

- ・安来市飯梨川河口は、カイトボードの西日本有数のゲレンデであり、関西や中国地方一円から愛好者が来訪。
- ・平成28年度は、ゲレンデ周辺に安来市、出雲河川事務所が協力して駐車場を整備。
- ・野鳥や漁業との共存、トイレ等の周辺整備、情報発信が今後の課題。



安来市飯梨川河口

※カイトボード：  
専用のカイト(帆)を用いて、ボードに乗った状態で水上を滑走するウォータースポーツ

## 4 これまでの取組み

### 各イベントの参加者数

参加者数の推移

	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
中海オープンウォータースイム	人	74	110	163	167	185
中海・宍道湖レガッタ(※)	クルー	51	54	51	22	56
なかうみマラソン全国大会	人	4,901	5,479	4,967	4,996	5,305

※平成26年度までは中海レガッタ



## 5 関連するアイデア

### (1) 環日本海国際トライアスロンin中海

- ・「全日本トライアスロン皆生大会」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景（江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等）を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。

## ③中海周辺観光

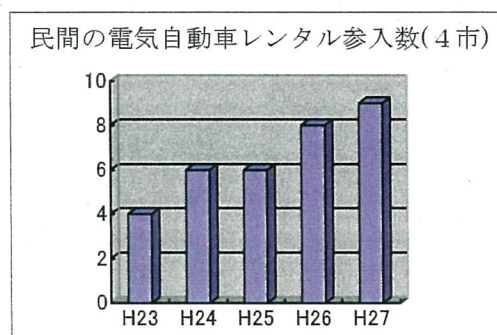
### 1 目 的

中海周辺エリアにおいて電気自動車（EVカー）の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら周遊できる環境づくりを推進して「環境にやさしい中海圏域」をPRするとともに、自然豊かな中海及びその周辺環境を生かした観光振興を図る。

また、中海会議でのアイデアや民間の取組みを、山陰インバウンド機構による山陰ブランドの構築等に活かしていく。

### 2 取組みの成果

急速充電器の設置やEVドライブマップの作成等の取組みにより電気自動車の利便性が向上し、インフラ整備が進んだことから民間事業者が新たに電気自動車レンタル業に参入するなど、環境に優しい中海圏域の取組みが進んでいる。



### 3 今後の取組み

#### (1) EVカーの取組み

- ・先導的な役割として中海周辺4市合同で実施してきたEV公用車の休日のレンタカー利用については、民間事業者の電気自動車レンタル業参入が促進されたことにより、その役割を終えたことから、今後は各市それぞれが普及啓発を中心に取組んでいく。

#### (2) 水上飛行機による遊覧飛行の取組み〔民間〕

- ・松江市の中海西岸と尾道市を結ぶ、水陸両用機を使用したチャーター便の運航を視野に、平成28年4月2日に試験飛行を実施した。当日は、離着水試験、騒音測定を行い、運航の検討に必要なデータを収集した。今後、試験飛行等について引続き検討を進める。

### 4 これまでの取組み

- ・EVカー（閉庁日貸出公用車）の導入 10台  
 中海・宍道湖・大山圏域市長会 6台  
 （米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台）  
 松江市単独3台、鳥取県1台  
 レンタル実績 297回（4市計：H23.10.15～H28.3末）



- ・急速充電器の設置

中海・宍道湖・大山圏域市長会：4カ所

（皆生温泉観光センター、境港市役所、松江市役所、道の駅「あらエッサ」）

松江市：2カ所（道の駅「本庄」、道の駅「秋鹿なぎさ公園」）

米子市：1カ所（米子市役所第2庁舎）

その他：くにびきメッセ、島根県立浜山公園、山陰自動車道宍道湖SA上り・下り、由志園、自動車販売会社、コンビニ、鳥取県西部総合事務所など



## 5 関連するアイデア

### (1) ECO シップコンテスト in NAKAUMI

- ・ 中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する（「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗）。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

### (2) 中海周遊船の運航

- ・ 中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航。

## ④水産資源の活用・回復

### 1 目 的

かつて地中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた地中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。また、環境や社会に配慮したメニューを「エシカルフード」として提供して、環境意識の醸成を図る。

エシカル (ethical) という用語は、「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近では「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。

### 2 取組みの成果

#### (1) 中海の水産資源を活用した新商品の開発・発売

- ・中海産オゴノリ入りクッキー
- ・スジアオノリ入りようかん
- ・赤貝の身やエキスをを用いた炊き込みご飯の素

#### (2) 水産資源の回復

- ・サルボウガイの復活 ( H26 : 2.7 t → H27 : 4.2t )
- ・アサリのカゴ養殖 ( H26 : 350kg → H27 : 400kg )
- ・ウナギの稚魚放流 ( H26 : 7,000匹 → H27 : 28,800匹 )

### 3 今後の取組み

食文化の復活のためには、水産資源の効率的な養殖方法、採算性などの課題を解決し、安定的に供給する必要がある、以下の取組みを進める

#### (1) サルボウガイ復活への取組み

- ・島根県・中海漁協・安来市及び松江市による種苗の安定確保試験、延縄式カゴ垂下養殖試験などを継続して実施し、低コスト化及び大量生産を目指す。
- ・中海漁協では、平成27年度4.2トンの生産量を、平成28年度は10トンまで延ばすことを目標にしている。

#### (2) アサリのカゴ養殖

- ・中海漁協では、松江市の補助事業を活用して養殖施設を拡充しており、平成27年度400キロの生産量を、平成28年度は500キロまで延ばすことを目標にしている。

#### (3) ウナギの稚魚放流

- ・松江市が (公社) 島根県水産振興協会へ委託し、昨年度に引き続き約29千尾の稚魚を放流する。

## 4 これまでの取組み

### (1) 中海食材の提供

- ・島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定。
- ・第2回中海会議から、中海食材を使った料理を提供し試食（赤貝めし弁当、スズキの昆布締め等）
- ・平成24年大会から「中海OWS」参加者へ、中海食材を使ったアサリ汁等の料理を提供。

### (2) 中海食材の開発に関連する取組み

#### ①民間事業者による中海食材の加工品販売

- ・松江市内のパン店で中海のオゴノリを練り込んだクッキーを販売。販売額の一部はNPOに寄附され、中海の環境改善等に役立てられる。
- ・道の駅本庄でスジアオノリ入りようかんを販売

#### ②サルボウガイ復活への取組み

- ・県水産技術センター、中海漁協、安来市及び松江市の4者は連携してサルボウガイの種苗確保のため天然採苗や人工採苗に取り組み、安定的に種苗を確保することが可能となった。
- ・平成24年度から、中間育成後の放流を取りやめ、漁業者による延縄養殖施設でのカゴ養殖試験を実施し、生産量の増加につながった。



サルボウガイのカゴ養殖



養殖試験中のサルボウ稚貝



サルボウガイの人工種苗の生産



ウナギの稚魚放流

## ⑤中海の「藻」の活用

### 1 目 的

かつて肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未利用資源」ととらえ、新しい産業へ結びつける。海藻を回収し湖外へ搬出することにより水質浄化につなげるとともに、有機肥料などの原材料として使用することで、水質浄化と産業創出を兼ね備えた資源循環の仕組みを構築する。

### 2 取組みの成果

#### (1) 循環型ビジネスの起業

- ・島根大学と連携し、海藻を使った肥料の製造、販売に取り組むベンチャー企業「(株)なかうみ海藻めぐみ」が創業。
- ・中海の水質汚濁の一因となっているオゴノリを回収・加工して肥料を製造。

#### (2) 未利用資源の活用と食育・環境教育の充実

- ・海藻肥料を使い栽培した「海藻米」を、平成27年度の二学期から境港市の学校給食に使用。
- ・「海藻米」は、日野川上流の日野町を中心に栽培されており、日野川の上流と下流が連携することで、食育・環境教育の充実が図られている。

### 3 今後の取組み

- ・海藻刈りによる栄養塩循環システム自立支援事業（鳥取県・島根県両県連携）
  - ①海藻を刈取って回収し利活用業者へ引渡し、海藻肥料等に加工し農地に利用。
  - ②栄養塩循環システムモデルを持続可能なものとするための課題は以下のとおり。
    - 海藻の繁茂が年によって大きく異なる傾向があるとともに、消長が短いものがあり、その把握が必要。
    - 乾燥は天候の影響を受けやすく、乾燥技術の確立が必要。
    - 安定した製造原価の確立、回収コスト及び製造コストの削減。
    - 販路拡大、ブランド力アップ、他の堆肥等との差別化、原材料の安定供給。
- ・旧加茂川藻刈り体験事業（鳥取県）
- ・引き続き、境港市の学校給食として「海藻米」を使用。
- ・中海産海藻肥料による農業改革セミナー

## 4 これまでの取組み

### (1) 海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業

- ・認定NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に委託し実施。平成23年度は343トン、平成24年度は295トン、平成25年度は275トンを回収し利活用業者へ引き渡し。
- ・平成26年度から補助金制度に事業を改め継続実施。平成26年度は340トン、平成27年度は332トンを回収。



### (2) 海藻農法による農業再生プロジェクト

- ・海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上。野菜市、セミナー・説明会開催。
- ・通販サイトの立ち上げ等を実施。
- ・平成26年度は海藻農法普及協議会にて海藻農法によるブランド化の取組みを推進。
- ・平成27年度から境港市の学校給食に海藻米を提供。

### (3) 藻の回収参加型イベント

- ・平成23年度から藻刈り体験、水環境学習会、中海の幸の試食会等を実施。平成23年度約30名、平成24年度約50名、平成25年度約70名の参加。
- ・平成26年度からは認定NPO法人自然再生センターの自主事業として実施。上記取組に加え、海藻肥料で育てたサツマイモの芋ほり体験を実施。平成26年度は約30名、平成27年度は約40名参加。



### (4) 旧加茂川藻刈り体験事業

- ・平成23年7月の「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、各種団体等の200名が参加。以後毎年実施。

### (5) 調査研究

- ・藻の分布・現存量調査、成分分析を行い、両県行政担当者とNPO法人との意見交換を実施。
- ・肥料の施用効果について、平成23年度と平成24年度に白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果を検証し、平成25年度からは水稻で施用効果を検証中。

## ⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

### 1 目的

中海を含む斐伊川水系は、我が国を代表するガン類・ハクチョウ類・ツル類・コウノトリ・トキ等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有している。この大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指す。

### 2 取組みの成果

- ・大型水鳥類を指標とする生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策について検討することを目的として「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」および「生息環境づくり部会」「地域づくり部会」を設置。
- ・生息環境づくりに向けた取り組みとして、先行して保全・整備を進めていく拠点(出雲エリア)を抽出。
- ・地域づくりについて、「観光」と「農業」を柱とした地域振興を展開していくことを確認。



### 3 今後の取組み

- ・生息環境づくりについて、中海周辺域においても大型水鳥類生息のための保全・整備拠点を抽出する。
- ・地域づくりについて、「観光」と「農業」を中心に大型水鳥類の魅力を活かした地域振興を関係者とともに検討する。

### 4 これまでの取組

- ・第1回協議会 平成27年4月28日
- ・第2回協議会 平成27年10月13日
- ・第1回生息環境づくり部会 平成27年12月18日
- ・第1回地域づくり部会 平成28年1月29日
- ・第2回生息環境づくり部会 平成28年2月8日
- ・第3回協議会 平成28年2月22日
- ・パネル展を各地で開催(くにびきメッセ、道の駅、JR米子駅、米子市立図書館等)

# 斐伊川水系 生態系ネットワーク 検討体制

中海・宍道湖・大山圏域の経済、観光、農業、漁業、行政、専門家などの多様な主体が集まり、人と大型水鳥類が共生する魅力的な地域づくりにおける取組を始めています。

## 生態系ネットワーク形成にむけて

斐伊川水系 生態系ネットワークによる  
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会  
**中海・宍道湖・大山圏域の  
関係者が集まって話し合う場**

人と大型水鳥類がともに暮らす地域づくりの実現と、地域の魅力を引き出すための取組を行います。

大型水鳥類が  
くらしやすい  
流域を考える場

大型水鳥類がくらしやすいよう、河川・農地などの環境の改善方法をみんなで考えます。

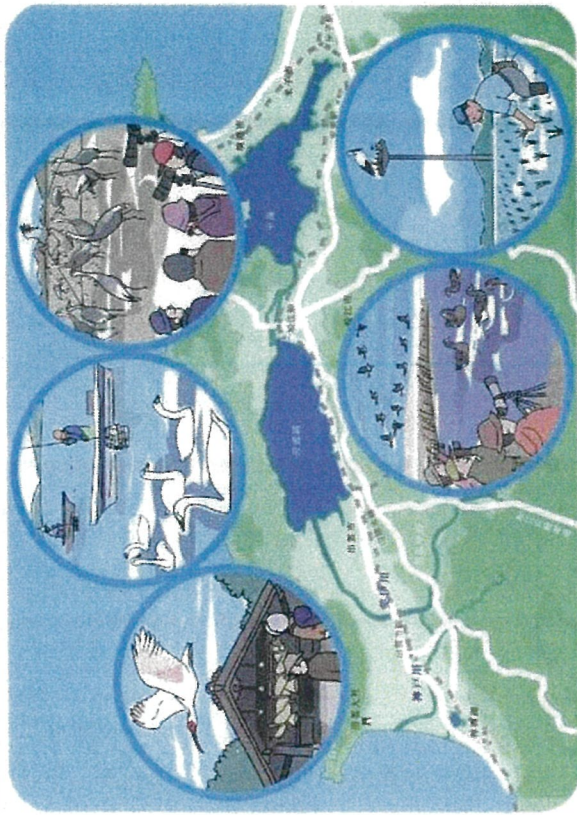
生態環境づくり部会

大型水鳥類の  
魅力を活かす  
仕組みについて  
考える場

大型水鳥類が舞う地域の魅力を、農業・観光などの観点からみんなで考えます。

地域づくり部会

事務局：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所



● 農産物のブランド化



大型水鳥類の  
魅力を  
活かす例

● 冬季の観光資源



● お土産の開発 コウノトリをモチーフにしたお土産など



大型水鳥類がくらしやすい流域づくりの推進

## ⑦ 中海を題材とした環境教育

### 1 目 的

次世代を担う子供たちに対し、中海を題材とした環境教育を行うことにより両県共通の貴重な財産である中海に対する意識を高め、賢明利用（ワイズユース）を将来にわたり持続させる。

### 2 取組みの成果

- ・各NPO法人を中心に、中海を題材にした様々な環境教育が実施されており、地元への愛着、環境への理解促進など、次世代を担う子供たちの意識の向上が図られている。
- ・NPOの活動は、表彰を受けるなど高い評価を受けている。
  - ①スジアオノリの養殖・加工・・・生物多様性アクション大賞2015入賞（環境省）  
第8回こどもエコグランプリにおいてグランプリ受賞（日本海テレビ主催）
  - ②オゴノリ刈りと海藻肥料によるサツマイモ堀体験・・・生物多様性アクション大賞  
2014審査委員賞受賞（環境省）

### 3 今後の取組み

- ・NPO法人主体の各種取組みに対して、両県協働の補助金や、「鳥取県みんなですすめるトトリズム！支援事業補助金」、「鳥取県環境保全活動支援補助金」など各種補助金の交付、取組みへの参加を通じて支援。

### 4 これまでの取組み

#### （1）スジアオノリの養殖・加工〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市本庄小学校の児童を対象に、平成25年度からアオノリの収穫、板アオノリ作りなどの体験学習を実施。
- ・平成27年度は、道の駅本庄において、養殖したスジアオノリを使ったようかんの販売開始イベントを開催。
- ・ようかんは、道の駅本庄、JR松江駅、認定NPO法人自然再生センター事務所、八束町の産直市で販売。



#### （2）伝統食文化伝承〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市意東小学校の児童を対象に、地元住民の協力のもと、「ゴズの昆布巻き」作りの体験学習（H24～H26）を実施。
- ・平成27年度は、透視度計等による中海の水質調査、赤貝の調理実習、中海産赤貝の販売体験を実施。





(3) 藻刈り・海藻肥料を施肥した畑におけるサツマイモの収穫〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市八束学園の児童を対象に、資源循環の意義、宍道湖・中海の湖沼環境に係る意識を啓発することを目的とした体験学習を実施。



(4) 中海ポスター・中海環境標語コンクール〔NPO法人中海再生プロジェクト〕

- ・地域の未来を担う児童を対象に、中海についてのポスター制作を通して中海への関心を高め、「未来の中海の形成者」であることの意識を醸成するコンクールを開催。
- ・あわせて、大人も参加できる環境標語コンクールも開催。

(5) アマモ場の保全・再生の取組〔NPO法人未来守りネットワーク〕

- ・平成17年度から、アマモ場を復活させる活動として種子採取、勉強会、移植イベントを開催。



(6) 水質浄化体験イベント〔湖底こううん隊〕

- ・米子市内の有志が平成26年に「湖底こううん隊」を設立し、米子市湊山公園において、中海周辺の親子ら地域住民を対象に水質浄化の手段としての「湖底こううん」の効果を検証するイベントを開催。



## 5 関連するアイデア

(1) 高等教育機関と連携した人材育成

- ・大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらおう。

## ⑧ラムサール条約普及啓発の取組

### 1 目 的

鳥取・島根両県で地域住民や次世代を担う子どもたちの参加型普及啓発事業を実施することにより、貴重な財産である中海・宍道湖を賢明に利用（ワイズユース）する意識を醸成する。

### 2 取組みの成果

- ・平成27年度はラムサール条約登録10周年にあたり、「アジアこども交流会」、「記念シンポジウム」「ラムサールフェア」など各種イベントを開催し、子供から大人まで、改めて中海・宍道湖に対するワイズユースの意識向上が図られた。
- ・ラムサール条約登録5周年記念事業を契機に応援団として賛同を得た企業等163社を会員とするポータルサイトを立上げ、ラムサール条約普及啓発のための情報発信力が強化された。

### 3 今後の取組み

#### (1) 各種イベントの開催

- ・「ラムサールシンポジウム2016—中海・宍道湖—」を、「ラムサールシンポジウム新潟」以来15年ぶりに開催（8月27日～29日）
- ・鳥取中海SUPフェスティバル（8月21日）  
※SUP：サーフボードのような専用のボードの上に立ち、パドルで漕いで水上を進む新しいマリンスポーツ
- ・中海バイク&ラン（日程未定）
- ・こどもラムサール交流事業（日程未定）
- ・住民の環境意識の醸成と湿地の賢明な利用促進のため、ワイズユースイベントを実施していく。

#### (2) ポータルサイトによる情報発信力の強化

- ・情報掲載の利便性、迅速性など情報発信力の強化のため、インターネットホームページを廃止し、本年度からソーシャルメディア（Facebook）による運用に移行。
- ・今後、情報発信する加入団体を増やし、情報量を拡充していくことが必要。

## 4 これまでの取組み

### (1) 保全再生

- ・ 中海・宍道湖一斉清掃 (H18～) / 両県、沿岸自治体、住民等

条約登録の翌年(平成18年度)から、両湖沿岸市町で実施日を統一(環境月間である6月の第2日曜日)。毎年約8,000人が参加し、これまでの延べ参加者は約8.1万人、回収したごみの量は累計約191トン。



年度	開始式会場	参加者(全体)	ゴミ収集量(全体)
18	波入港親水公園(松江市)	6,000人	20.00 t
19	湊山公園親水護岸(米子市)	5,728人	16.28 t
20	ハーモニータウン汐彩(安来市)	7,844人	16.15 t
21	境港市リサイクルセンター等(境港市)	7,433人	27.95 t
22	意東海岸(東出雲町)	7,232人	14.56 t
23	波入港親水公園(松江市)	7,976人	17.80 t
24	湊山公園親水護岸(米子市)	7,224人	17.24 t
25	島田干拓地(安来市)	7,696人	13.67 t
26	境港西工業団地(境港市)	7,544人	14.07 t
27	本庄水辺の楽校(松江市)	8,050人	15.11 t
28	湊山公園親水護岸(米子市)	8,134人	18.08 t
	合計	80,861人	190.91 t

## (2) 交流学習

- ・こどもラムサール交流 (H19～) / 両県、米子水鳥公園、宍道湖自然館ゴビウス  
全国の湿地で活動している子どもたちとの交流会を継続実施し、次世代のリーダーの育成を図ってきた。

(主な交流先)

谷津干潟 (千葉県/H23～)、豊岡 (兵庫県/H23～)、琵琶湖 (滋賀県/H23～)、東与賀海岸 (佐賀県/H26～)、チュナム貯水池 (韓国昌原 (チャンウォン) 市/H22、27)、マイポ湿地 (中国香港/H27)



年度	内 容
17	○中海・宍道湖ラムサール条約 登録記念シンポジウム (H17.12.3)
18	○中海・宍道湖ラムサール条約 登録1周年記念大会 (H18.12.2) ○中海・宍道湖ラムサール条約 シンボルマーク発表 (H18.12.2)
19	○KODOMOラムサール〈中海・宍道湖〉全国湿地交流の開催 (H20.2.9～11)
22	○ラムサール条約登録5周年記念イベント ・「中海・宍道湖を知る・学ぶ展(松江会場)」(H22.9.30～10.10) ・「次世代へつなぐ豊かな恵み(シンポジウム)(米子会場)」(H22.10.30) ○北東アジア子ども交流 (韓国・チャンウォン市から招聘)(H22.10.9～10.11)
23	○ラムサール条約リレーシンポジウム (H23年から島根・鳥取が連携実施 年5回シリーズ) ○こどもラムサール全国湿地交流の開催 (H23.10.8～10.10) ⇒谷津干潟、豊岡、琵琶湖から中海に招聘し交流
24	○こどもラムサール交流・派遣 ・谷津干潟での交流 (H24.9.15～9.16) ・「豊岡」条約登録に併せ、豊岡を訪問して交流 (H24.10.06～10.07) ○ラムサール条約リレーシンポジウム (年5回シリーズ テーマ「食」)
25	○こどもラムサール交流・派遣 ・琵琶湖での交流 (H25.8.22～8.23) ・谷津干潟及び豊岡等の子ども達を宍道湖へ招待し交流 (H25.11.9～11.10) ○ラムサール条約リレーシンポジウム (年間5回シリーズ テーマ「恵み」)
26	○こどもラムサール交流・派遣 ・佐賀県東与賀の子ども達が米子水鳥公園を訪れ交流 (H26.4.5～4.6) ・佐賀県東与賀干潟での交流 (H26.7.26～28)
27	○こどもラムサール交流・派遣 ・中海に国内外の子ども達(米子、島根、韓国、香港、琵琶湖(滋賀)、豊岡(兵庫))を招待し、交流 (H27.8.22)

### (3) ポータルサイトによる情報発信

- ・平成23年10月 ポータルサイト「中海・宍道湖情報館」の試験運用  
12月 正式運用開始
- ・平成27年の状況  
中海・宍道湖一斉清掃、ラムサール10周年イベント等の周知に活用

## 5 関連するアイデア

### (1) 「中海憲章(仮称)」の制定

- ・中海を取り巻く地域が一体となって一緒に行動していくための共通の言葉「中海憲章(仮称)」を制定する。その理念や指針を実行するイベントの開催や、圏域の小学校、公民館等へ校内、館内への憲章の掲示や関連行事の実施など、活動の契機となるような取組を進める。今後、NPOなどの取り組みを支援しながら、地域が一体となった機運を醸成していく。

### (2) 環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

- ・清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質に貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映することにより、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む効果が期待される。

## ⑨ 中海ワイズユース住民活動の推進

### 1 目 的

中海圏域の住民から中海の賢明利用（ワイズユース）企画の提案を公募するなど、住民自身が未来志向で企画を考え実施することで、中海への関心や気運を盛り上げる。

### 2 取組みの成果

鳥取・島根両県共通の地域課題に対するNPO等と行政とが連携した課題解決へ取り組みや、「中海海開き」、「中海夕暮れコンサート」、「日本風景街道」などの住民主体の取組により地域住民の中海へ意識向上が図られている。

### 3 今後の取組み

#### （1）鳥取・島根広域連携協働事業〔鳥取県・島根県〕

- ・両県で実施しているNPO法人等を対象とした「鳥取・島根広域連携協働事業」については、以下の課題があった。
  - ①行政が協働により取り組みたい課題がNPO等から把握しにくい。
  - ②2ヶ月の募集期間内では、両県NPO等と行政で課題が共有できない。
  - ③事業実施期間が最長でも約9ヶ月となるため、提案された計画を練り上げる時間がない。
- ・このため、平成28年度から2カ年で実施するよう事業制度を改善。
  - ①県が抽出した課題等に対し、NPO等が事業を提案（初年度）。
  - ②採択された事業計画に基づき事業を実施（2年目）。
  - ③平成28年度のテーマは、「中海の未利用資源である海藻の活用による地域づくり」

#### （2）日本風景街道活動の推進〔湖水街道推進会議〕

- ・県が整備したルート案内看板、二十社寺案内看板、道の駅ブース等を活用し、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を、推進団体である湖水街道推進会議と行政が一体となって推進。

#### （3）中海夕暮れコンサート〔中海夕暮れコンサート実行委員会〕

- ・中海の夕日のすばらしさを実感して「未来の中海の姿」を思い描いてもらう機会の創出を目的に、5月下旬から9月下旬にかけて土曜日の夕暮れ時に中海湖岸でコンサートを開催（平成28年度は6回開催）。

#### （4）ミズベリング・プロジェクト〔国土交通省〕

- ・水辺の新しい活用の可能性を創造し、賑わいと活力ある水辺とまちづくりを目指す取組みを通じて、ワイズユースを促し、住民等が水辺とつながる活動を展開。

#### 4 これまでの取組み

##### (1) 鳥取・島根広域連携協働事業〔鳥取県・島根県〕

- ・平成24年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援。
- ・平成24年6月にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、以降両県で後援している。

##### (2) 日本風景街道〔湖水街道推進会議〕

###### 【平成22～25年度】

- ・島根県内の風景街道ルートにルート案内看板や二十社寺案内看板を整備。
- ・道の駅9箇所に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、PRブースを整備。
- ・道の駅「本庄」近傍、外2箇所にビュースポット（東屋、風景解説板、ベンチなど）を整備。
- ・大山寺付近に二十社寺案内看板1基を追加

###### 【平成26年度】

- ・日本風景街道大学しまね校開催（H26.11.7～8）



『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路』

##### (3) 中海海開き〔NPO法人未来守りネットワーク〕

- ・中海周辺の地域住民等を対象に、中海の浅場の水質改善により生き物たちが戻り始めていることを体感させ、今後の中海再生に役立てるため、平成22年度からNPO法人主催で実施。



##### (4) 中海夕暮れコンサート〔中海夕暮れコンサート実行委員会〕

- ・米子水鳥公園などで平成19年度から毎年開催。



##### (5) ミズベリング・プロジェクト〔国土交通省〕

- ・境港市夕日ヶ丘地区で平成27年7月7日午後7時7分に「水辺で乾杯」。

